

平成28年8月8日(月)

産経新聞

号外

産業経済新聞(サンケイ)
THE SANKEI SHIMBUN
発行所 ©産業経済新聞東京本社2016
〒100-8077東京都千代田区大手町1-7-2
☎ 東京(03)3231-7111 (大代表)



生前退位 強い意向

天皇陛下「象徴の務め困難に」

ビデオメッセージ 摂政には不定的



象徴としてのお務めについての「お気持ち」を、ビデオメッセージで表明される天皇陛下（宮内庁提供）

天皇陛下は8日午後3時、象徴の在り方や公務についてのお気持ちをビデオメッセージで表明し、「生前退位」実現への思いを示された。82歳の陛下は体力の衰えを憂慮し、「全身全霊をもって象徴の務めを果たしていくことが、難しくなるのではないかと案じています」と懸念を示す一方、公務の負担軽減には「象徴としての行為を限りなく縮小していくことには、無理がある」と思われます」と否定的な考えを述べられた。

陛下が毎年12月の誕生日会見以外で、お気持ちを示されるのは極めて異例。陛下は、生前に皇太子さまに皇位を譲る「生前退位」の意向を周囲に伝えていたが、今回は「天皇という立場上、現行の皇室制度に具体的に触れること」は控えるとして、退位に直接には言及されなかった。

現行の皇室典範では退位を認めず、退位を実現するには制度改正や特別立法が必要となる。陛下は「憲法の下、天皇は国政に関する権能を有しません」との認識を強調しながら、最後に「国民の理解を得られることを、切に願っています」と国民的な議論の深まりを望まれた。

また、典範には、天皇が重篤な疾患などの理由で職務を果たせない場合に「摂政」を置く規定があるが、陛下は「十分にその立場に求められる務めを果たせぬまま、生涯の終わりに至るまで天皇であり続けること」に変わりはありません」と違和感を示された。

お気持ち表明の背景については、「何年前」から加齢による体力の低下を自覚し、「これから先、従来のように重い務めを果たすことが困難になった場合、どのように身を処していくことが、国にとり、国民にとり、また、私のあとを歩む皇族にとり良いことであるかにつき、考えるようになりました」と説明された。

歴代天皇のうち半数近くが生前退位しているという、皇室の長い歴史も振り返られたという。

ビデオメッセージは7日午後11時に皇居・御所で収録され、陛下が約11分間かけて文書を読み上げられた。宮内庁は8日午後11時にホームページや報道機関を通じて、一斉に公表した。